

2 研究の実際

(6) 言語活動の充実を図る学習形態

目的や学習内容に応じて活動形態を工夫することは、充実した言語活動につながります。言語活動の活動形態は、個人、ペア、グループ、全体の4つが考えられます。表4は、活動形態ごとの内容や利点、留意点をまとめたものです。それぞれの活動形態の利点を踏まえた上で、授業のねらいに即し、それを達成するための形態に配慮する必要があります。自由に考えが言える雰囲気を作ったり、表現に用いる語彙を増やすような手立てを取ったりすることで、感じ取ったことや聴き取ったことを伝えることが苦手な児童生徒も安心して伝え合うことができます。

表4 言語活動の活動形態別の利点と留意点

| 活動形態 | 活動内容 | ○利点 ★留意点 |
|------|--|--|
| 個人 | ・ノートやワークシートなどに考えを書く。 | ○自分の考えをもつことができる。 ○書くことで自分の考えを整理することができる。 |
| ペア | ・隣同士で考えを伝え合う。 ・自由に相手を選んで、考えを伝え合う。 | ○緊張感が少ないため、気軽に交流できる。 ○短い時間で意見交換ができる。 ○自分の考えと比べながら相手の考えを聞くことができるため、自分の考えに客観的な視点を入れた確認ができる。 ○全体の話し合いを行う前にペアの話し合いを入れることが、安心して発言する場を与えることにつながる。それが、積極的な授業参加を促すことにもつながる。 ○自分の考えがもてなかったときは、友達の考えを基に自分の考えを生み出しやすくなる。 ★ペアを誰と作るかを考える必要がある。 <u>隣同士など固定のペアで活動させる場合</u> ○短時間で交流できる。 ○児童生徒の人間関係に反映することなく活動させることができる。 <u>自由に相手を選んで活動させる場合</u> ○多くの友達と意見交換ができる。 |
| グループ | ・3人以上でグループを作って考えを伝え合い、出し合った考えを基に、話し合いを進める。 | ○複数の考えに触れられるため、お互いの考えの類似点や相違点を見いだしたり、考えを深めたりできる。 ★目的や学習内容に応じてグループの人数を考慮するとよい。 ○互いに意見を述べ合い、折り合いをつけて一つに考えをまとめていく場合は3～4人グループが取り組みやすい。 ○多様な意見を交流することで考えを広めたり深めたりするような場合は6～8人グループが取り組みやすい。 ★だれかがやってくれるだろうという甘えが生まれる可能性があるため、はっきりとした目的意識や当事者意識をもたせ、学びの成果が可視化できる手立てを用いる。 ★一人一人が考えをもってグループ学習に臨めるように、個人の意見を整理する時間を取る。 ★順に考えを出し合うだけになってしまわないように話し合いの視点を明確にする。 |
| 全体 | ・全体の前で個人の考えや、ペア、グループで話し合ったことを発表する。 | ○その授業で必要な知識についての理解を深め、全体で共有することができる。 ○さらに多様な考えに触れ、考えを深めることができる。 ○教師との対話により、良い考えを共有したり誤った言葉の遣い方を修正したりして、全体で確認することができる。 |